

福祉委員へ突撃インタビュー

身近な見守りと交流をサポートしています！

市社協では、近隣住民の「見守り」「支え合い」などの活動を通じて、いつまでも安心して暮らせる地域社会づくりを推進していくため、自治会を単位に福祉委員の設置をお願いし、民生委員児童委員等と連携しながら地域の見守り活動を行っていただいています。福井市内では、幅広い世代の福祉委員が活躍されており、今回、若い世代の福祉委員にインタビューしました。



わきや
脇屋

ともき
智樹さん

令和4年4月から
福祉委員として活動されています。

地域の方々へメッセージ

若い世代が「支える」ことだけではなく、高齢の世代の方も、次世代にどう「引き継ぐ」か、一緒に考えていければと思います。地域にはいろんな世代の方が住んでいます。どんな世代の方も一緒に地域をつくりあげていければと思います！

Q 福祉委員になろうと思ったきっかけはなんですか。

自分からなろう！と思ったわけではなく、地区の順番でお声かけいただいたのがきっかけでした。しばらく地元を離れていたこともあり、地域で知らない人も多く、どのように活動したらよいかという不安や、なぜ自分がやらないといけないのかという気持ちもあり、実はマイナスイメージからのスタートでした。

Q 普段どういった活動をされていますか。

主な活動としては見守りも兼ねた高齢者宅へのお弁当配布です。最低でも月に2回は訪問しています。高齢者の方はお話好きな方も多く、一度訪問すると2時間くらい話をしていることもあります。それだけではなく、日ごろの挨拶はもちろん、不安を抱えている方に対してはサービスの情報提供をしたりしています。



Q 見守りに関して何か気を付けていることはありますか。

人はそれぞれライフスタイルが違うので、生活スタイルをさりげなくつかみ、気を配りながら活動を行っています。

Q 福祉委員をしている中で見えてきた地域のよいところを教えてください。

仲良く、アットホーム。新しい人が地区に入ってくないことがよくないことだと思っていましたが、昔から住んでいる人が多く、近所同士で顔の見える関係性ができていることがよいところだと気づきました。

Q 活動の楽しさややりがいはなんですか。

福祉委員になってからは近所での会話がぐんと増え、今では自分の楽しみになっています。訪問を重ねることでその人の本音

に気づき、仲良くなることができました。福祉委員をしていなかったら本音に気づかないままだったと思います。訪問に行った際に「待ってたよ」「いらっしゃい」と温かく迎え入れてくれることが本当に嬉しくやりがいはなっています。

また僕自身、6歳と3歳の子どもがいますが、地域の方が子どもへ関わってくれることも増えたと思います。「地域全体」で子どもをみてくれていると感じることができました。

Q 普段の仕事やプライベートとの両立はどのようにされていますか。

仕事の合間を縫って福祉委員の活動を行っています。僕は経営者の立場なので調整が上手くできていますが、現役世代で仕事をしている人は日中の福祉委員活動は大変なのではないかと思うことも多くあります。活動に参加しやすい環境づくり、各々の時間をどう福祉委員の活動にあてるか、ということは今後の課題なのかなと思います。

Q 福祉委員になって気づいたことや変化したことはありますか。

宝永地区のことをすごく考えるようになりました。福祉委員としては、普段の仕事の「職員」としての関わりではなく、「地域の一住民」としてフラットな関わりができ、住民目線での新たな気づきや発見がありました。

Q 若い世代に期待する役割を教えてください。

地域にはいろんな世代の方が住んでいます。若い人もいろんな方と繋がり交流を持つことで、新たな気づきがあると思います。まずは「みて」「きいて」「しって」みるのが大事なのではないでしょうか。若い時に一度福祉委員の経験をする、自分にはない視点に触れることができ、自分のプラスになると思いますよ。

福祉委員について知りたい場合

詳しくは、当会Webサイトの福祉委員のページをご覧ください。
右記のQRコードからご利用いただけます。

問い合わせ 市社協 地域福祉課 TEL 0776-26-1853

